

家政学部共通科目

授業科目名	右上表示
家政学概論	共通-1
生活と児童	共通-2
生活と食物	共通-3
生活と被服	共通-4
生活と住居	共通-5
生活と経済	共通-6
商品・サービス等の品質と安全性	共通-7

家政学概論 (テキスト)

担当教員：天野 晴子・増茂 智子

1年次～ 選択必修2単位

テキスト科目/2026年度

概要

家政学とはいかなる学問か。その理解のために1. 家政学の定義や研究対象、研究方法等を知る。2. 家政学の展開過程を確認する。その上で、3. 生命の論理や家族と個人の生涯発達及び生活文化といった家政学分野で総合的な見地から扱われる生活論についても学ぶ。これらを通して、各自が自分の所属する学科での学習関心と結び付け、4. 持続可能な社会のための家政学の社会貢献について把握することを目指す。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1

到達目標

- ①現実の生活を客観的に把握し、生活の総合性を理解することができる。
- ②単に自然科学的なものの見方、知識だけでなく、社会科学的視点や理論に基づき、課題を説明することができる。
- ③家族員が、男性も女性も、能力と人間性を全面的に開花させることができるような、生活様式の創造への提言ができる。

学習の進め方

テキストと「学習の手引」を熟読した後、レポートを作成する。本科目は、「家庭生活を中心とした人間生活における人と環境との相互作用について研究する実践科学であり総合科学」である家政学という学問の「概論」を学ぶことが目的である。科目修了試験に向けては、テキスト全体及び「学習の手引」をよく理解しておくこと。

内容

T:テキスト 「手引」:学習の手引き

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 1. ガイダンス (「手引」・T1章) | 9. 家政学における生活へのアプローチ |
| 2. 日本女子大学創設者 成瀬仁蔵先生の家政学部構想 (「手引」) | (1)生命・生活と人間発達 (T5章1.2) |
| 3. 家政学とは何か (1)定義、対象、方法、目的等 (T2章1-5)) | 10. 家政学における生活へのアプローチ |
| 4. 家政学とは何か (2)独自性、組織、名称、これからの家政学等 (T2章6-9) | (2)家族・家庭生活 (T5章3.4) |
| 5. 世界の家政学 (1)展開過程 (T3章1) | 11. 家政学における生活へのアプローチ (3)生活文化 (T5章7) |
| 6. 世界の家政学 (2)家政学の源流: エレン・リチャーズ (T3章2) | 12. 家政学の普及・社会貢献 (1)家政学と教育 (T6章) |
| 7. 日本における家政学の展開過程 (T4章) | 13. 家政学の普及・社会貢献 |
| 8. 家政学のおもな領域と家庭科教育 (「手引」) | (2)持続可能な社会とこれからの家政学 (T6章) |
| | 14. SDGs と家政学 (「手引」) |
| | 15. まとめ |

テキスト・参考書

- ①テキスト やさしい家政学原論 (一社)日本家政学会家政学原論部会編 建帛社 2018、学習の手引
テキスト一覧(『履修の手引』に掲載)を必ず参照のこと。
- ②参考書
1. 育もう家政学 「家政学のじかん」編集委員会編 開隆堂 2024
 2. 日本女子大学家政学部 100年の歩み 日本女子大学家政学部 100年研究会編 2002 (非市販本 図書館にあります)

成績評価

①レポート

課題の理解30%、テキストでの学びの反映50%、アドバイスの活用10%、レポートとしての完成度10%を目安として評価する。

②科目修了試験

論述形式の出題とし、第1問50~60点、第2問50~40点を配分し、合計点で評価する。

生活と児童 (テキスト)

担当教員：菅井 洋子

1年次～ 選択必修2単位

テキスト科目/2026年度

概要

「生活と児童」では、「生活」との関連から新たな知見や専門用語等を学び、人生最初期である乳幼児期からの「子ども」理解を深め、自分なりに意味を探りながら、今後にかかしていけるように考えることを目的とする。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1

到達目標

- ① 生活をめぐる新たな知見や専門用語との関連から、「子ども」について理解を深め説明することができる。
- ② 「生活と子ども」について、学んだことや調べたことをもとに考察することができる。

学習の進め方

下記の「内容」を参照し、以下の順に学習を進め、レポート作成にのぞむこと。

- ① テキストに記されている「問い」について考える。
- ② 自分の考えをふまえてテキストを読み学ぶ。
- ③ テキストの内容を振り返り、関連文献や収集した情報を読み理解を深め、意味を探る。
- ④ 今後、具体的にどのようにかかしていけるかを考えまとめる。

内容

- | | |
|---|---|
| 1. 食べる：保育や家庭における子どもの食
(1.1～1.2を読み考える) | 10. 遊ぶ：学んだことを振り返りながら、調べたことや考えたことをまとめる |
| 2. 食べる：子どもの食物、腸から脳へ
(1.3～1.4を読み考える) | 11. 繋がる：遊びから学びへ繋げる (4.1を読み考える) |
| 3. 食べる：学んだことを振り返りながら、調べたことや考えたことをまとめる | 12. 繋がる：対話で繋がる (4.2を読み考える) |
| 4. 眠る：睡眠を育む、睡眠と環境 (2.1～2.2を読み考える) | 13. 繋がる：技術や政策で繋がる (4.3～4.4を読み考える) |
| 5. 眠る：睡眠の始まり、子どもとかわる人の睡眠
(2.3～2.4を読み考える) | 14. 繋がる：他者と繋がる中で拓かれる発達
(4.5を読み考える) |
| 6. 眠る：学んだことを振り返りながら、調べたことや考えたことをまとめる | 15. まとめ：テキストを振り返り、気づいたことや考えたこと、調べたことをもとに自分の考えをまとめる |
| 7. 遊ぶ：見る、聴く (3.1～3.2を読み考える) | レポート合格後は、科目修了試験受験にむけてテキストでとりあげられた専門用語や概念の説明や、具体的な事例をもとに自分の考えを表現できるように準備し学習を進めること。 |
| 8. 遊ぶ：探る (3.3を読み考える) | |
| 9. 遊ぶ：泣く (3.4を読み考える) | |

テキスト・参考書

- ① **テキスト** 「乳幼児の発達と保育ー食べる・眠る・遊ぶ・繋がるー」 秋田喜代美 (監修) 朝倉書店 2019
- ② **参考書** 「保育学用語事典」 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (編) 中央法規出版 2019
テキストに記されている「文献」「参考図書」や、関連文献や情報等を自ら検索し、それらを参考にしながら学びを深めて下さい。

成績評価

- ① **レポート**
 - ① テキスト内容を理解し、適切に説明できる (60%)
 - ② 関連文献や収集した情報をもとに、理解を深めている (20%)
 - ③ テキストに示された視点を活かして、生活と子どもについて考察できる (20%)
- ② **科目修了試験** 論述形式の問題を提示する。成績は、レポート評価と同じ割合で評価する。

生活と食物 (テキスト)

担当教員：小長井 ちづる

1年次～ 選択必修2単位

テキスト科目/2026年度

概要

生命を維持するには食は必要不可欠である。そのため、各自が食物について幅広い知識を持ち、さまざまな視点から科学的に考え判断できる力が求められる。「生活と食物」では、生活者として必要な食に関する正しい知識の獲得と判断力を養うことを目的として、食と健康について広く学ぶ。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1

到達目標

- ①栄養学、食品学、調理学の基礎的な知識を習得する。
- ②食について広範で正確な知識を身につけ、生活者としての判断力を養う。

学習の進め方

テキストおよび「学習の手引」を熟読し、基礎的な知識や考え方を学ぶ。参考書や関連書籍も用いて学びを深め、レポート作成に臨む。課題1はテキスト第1章、課題2はテキスト第3章、課題3はテキスト第4章、課題4はテキスト第2章・第5章を中心に学習する。科目修了試験に向けては、テキスト全体を深く理解しておくこと。

内容

1. 栄養に関する基礎知識①：食物中の栄養素の役割、炭水化物
2. 栄養に関する基礎知識②：脂質、たんぱく質
3. 栄養に関する基礎知識③：ミネラル、ビタミン、水分
4. 栄養に関する基礎知識④：栄養素の消化・吸収と代謝
5. 健やかな食生活を営むための基礎知識①：食事摂取基準、健康づくり、献立作成
6. 健やかな食生活を営むための基礎知識②：食品の表示とその購入
7. 健やかな食生活を営むための基礎知識③：調理の基本
8. 日本の食生活の変遷①：日本型食生活、欧米型食生活
9. 日本の食生活の変遷②：食生活の現状、食生活の改善
10. ライフステージと食生活①：妊娠期・授乳期
11. ライフステージと食生活②：乳児期
12. ライフステージと食生活③：幼児期、学童期、思春期
13. ライフステージと食生活④：成人期・高齢期
14. 食事と生活習慣病①：メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧症
15. 食事と生活習慣病②：糖尿病、脂質異常症、動脈硬化症、骨粗鬆症

科目修了試験に向けて、レポート課題を中心に復習し、知識を整理する。とくに主要な栄養素の消化・吸収、代謝、生体内における働きについては、十分に理解できるようにすること。また、専門用語についてはその意味を説明できるようにしておく。

テキスト・参考書

①テキスト 食生活 健康に暮らすために [第4版] 市川朝子・下坂智恵編著 八千代出版 2025、学習の手引

②参考書 『レポート課題集』を参照のこと。 **テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。**

成績評価

①レポート

課題の理解 40%、「ねらい」「アドバイス」の活用 20%、学生自身の学習成果 30%、レポートの完成度 10%として評価する。

②科目修了試験

第1問 30点、第2問 30点、第3問 40点と配分し、合計点で評価するが、1問でも0点となった場合は不合格とすることがある。

その他

日頃の食生活に直結したテーマばかりなので、自身の生活や経験とつなげて考えられるようにしてください。また、新聞、ニュースなどで取り上げられた食に関わる事柄に注意を向け、さらに詳しく調べるなど、関心を高め理解を深めるように心掛けてください。

生活と被服 (テキスト)

担当教員：米今 由希子

1年次～ 選択必修2単位

テキスト科目/2026年度

概要

日常生活の中で私たちは当たり前のように被服をまとっているが、これは人間だけに与えられた行為であり、被服はその土地の風土や文化、文明や技術の発達と密接に関わっている。このような視点から、現代を生きる私たちの生活と被服を広い視野でとらえるために、文化的・歴史的な側面と科学的な側面からアプローチし、被服についての理解を深めることによってよりよく豊かな生活を送るために役立てたい。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1

到達目標

- ①被服の起こりと役割について理解する。
- ②被服の歴史的な変遷と民族的な特徴について理解する。
- ③ライフスタイルによるそれぞれの被服設計の特徴について理解する。
- ④被服設計の考え方とその方法、および現代社会における被服の取り扱いについて理解する。

学習の進め方

テキストを一読し、章ごとにそれぞれの内容をおおよそ理解した後、各章の参考文献を参照しながらさらに理解を深め、ポイントをまとめる。レポート課題を確認し、課題に適した参考文献によりさらに学習を深める。課題1はテキスト2章、課題2はテキスト3章、課題3はテキスト5章、課題4はテキスト6章をそれぞれ中心に検討する。レポート合格後は科目修了試験に向けてそれぞれの項をまんべんなく深く理解し、知識を整理しておくこと。

内容

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1. 衣服と生活①人間と環境、衣服の起源 | 9. ライフスタイルと衣服①現代の衣生活 |
| 2. 衣服と生活②衣服の種類、衣服の役割 | 10. ライフスタイルと衣服②衣服の着装 |
| 3. 衣服の変遷①西洋の衣生活 | 11. ライフスタイルと衣服③ライフサイクルからみた衣服設計 |
| 4. 衣服の変遷②日本の衣生活 | 12. 衣服の取り扱い①衣服の購入 |
| 5. 民族と衣生活①風土と衣生活 | 13. 衣服の取り扱い②衣服の手入れ |
| 6. 民族と衣生活②民族と衣服 | 14. 衣服の取り扱い③衣服の収納、リフォーム、廃棄 |
| 7. 衣服の設計と製作①衣生活のための衣服素材 | 15. まとめ |
| 8. 衣服の設計と製作②衣服のデザインと製作 | |

テキスト・参考書

①テキスト シリーズ生活科学 衣生活学 佐々井啓編著 朝倉書店 2016、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 『レポート課題集』参照

成績評価

①レポート 課題の目的的理解 30% 学習成果 40% レポートの完成度 30%

②科目修了試験 知識 50% 理解 30% 論理性 20%

その他

日ごろから私たちが行っている被服の選択、購入、手入れや着装といった被服行為に積極的に関心を持ち、テキストで学習した内容を実際の生活と結びつけて理解できるように心掛けてください。

生活と住居 (テキスト)

担当教員：大塚 順子

1年次～ 選択必修2単位

テキスト科目/2026年度

概要

住まいは私たちの生活の基盤であり、安全で安定した生活を持続させるためには住まいとそれを取り巻く住環境における人と人、人と環境との関係を私たち一人ひとりが考えて構築していく必要がある。本科目では、テキスト学習、文献調査、必要に応じて、フィールドワーク等を行って、身近な課題としてとらえ、生活と住居のあり方を学んでいく。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1

到達目標

- ① 住まいの役割、住居機能の変化、住生活の構造的変化を理解する。
- ② 住宅・住生活の歴史的な変遷と住まいの計画について理解する。
- ③ 環境と住生活について理解し、環境に負荷をかけない生活のあり方や住宅の維持管理の要点を理解する。
- ④ 地域生活とまちづくりについて、地域生活やそこでの住まい方を多様な視点で理解する。

学習の進め方

テキストを熟読した後、参考文献や情報を収集してレポート課題に取り組む。必要に応じて、文献調査、フィールドワーク等を実施し、学習を深める。科目終了試験に向けてはテキスト全体を深く理解しておくこと。

内容

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 住生活を学ぶ
住生活における近年の著しい構造的変化 | 9. 環境と住生活(1) 温熱環境・光環境・音環境 |
| 2. 住宅・住生活の変遷(1) 原始、古代・中世・近世 | 10. 環境と住生活(2) 空気質・水環境、環境負荷 |
| 3. 住宅・住生活の変遷(2) 近代・現代 | 11. 住居の選択と管理(1) 住居の選択 |
| 4. 福祉と住居(1) 障害・健康状態と環境 | 12. 住居の選択と管理(2) 住居の管理 |
| 5. 福祉と住居(2) 高齢者と住まい | 13. 地域生活とまちづくり(1) まちづくりとはなにか/住宅地の諸相 |
| 6. 福祉と住居(3) 障がいのある人と住まい/住宅改善 | 14. 地域生活とまちづくり(2) 地域・まちをつくるさまざまな視点 |
| 7. 住まいの計画と設計・製図(1) 住まいの計画 | 15. 地域生活とまちづくり(3) 地域の整備/地域を育む |
| 8. 住まいの計画と設計・製図(2) 設計・製図 | |

テキスト・参考書

- ① **テキスト** 生活と住居 ひとりひとりが暮らしを考える 葉袋奈美子・浅見美穂 編著 彰国社 2026

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

- ② **参考書**
- ① 私たちの住まいと生活 水村容子他編 彰国社 2013
 - ② 図解住居学1 住まいと生活 第2版 岸本幸臣他著 彰国社 2011
 - ③ 生活の視点でとく都市計画 葉袋奈美子他著 彰国社 2024

※これらの他、レポート課題の参考書や各自で探した文献で学習することが望ましい。

成績評価

- ① **レポート** レポートの全体を100%として、課題の理解40%、「ねらい」「アドバイス」の理解と活用20%、関連文献や収集した資料等を利用した自己学習の成果30%、レポートの完成度10%を目安として評価する。
- ② **科目修了試験** 全4問、各25点の記述式の出題とする。

その他

自分自身の生活に目をむけ、日頃から身近な住環境について関心をもって情報収集し、理解を深めるように心がけること。

生活と経済 (テキスト)

担当教員：倉田 あゆ子

1年次～ 選択必修2単位

テキスト科目/2026年度

概要

この科目では、経済的な側面から実際の福祉制度を学びます。とりあげるテーマは、「母子をめぐる福祉サービス」「生活保護」「医療保険制度と高齢者の保護制度」「公的年金制度」「介護保険制度」などです。これらの現実的な生活問題を制度面から考えます。それらの実際の手続きや受給資格、受けられるサービスの内容などを学びます。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1

到達目標

- ①日本の実際の福祉制度の仕組みを理解できる。
- ②生活の経済的困難を支援する経済的支援の仕組みを理解できる。

学習の進め方

テキストの章ごとに学習をすすめます。レポート合格後も、テキストをよく読んで、具体的なことがらも理解できるようにしてください。

内容

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 母子をめぐる福祉(1) サービスと制度 | 9. 医療保険制度(2) 給付内容、その他 |
| 2. 母子をめぐる福祉(2) 仕事との両立、支援 | 10. 障害者をめぐる制度(1) 法律・制度 |
| 3. 生活保護(1) 制度 | 11. 障害者をめぐる制度(2) 支援事業、その他 |
| 4. 生活保護(2) 扶助・支援の内容 | 12. 介護保険制度(1) 制度 |
| 5. 高齢者をめぐる諸制度 | 13. 介護保険制度(2) 内容 |
| 6. 公的年金制度(1) 老齢年金 | 14. 介護保険制度(3) 給付とサービス |
| 7. 公的年金制度(2) 障害年金ほか | 15. 成年後見制度 |
| 8. 医療保険制度(1) 制度 | |

テキスト・参考書

①テキスト 六訂版図解 福祉の法律と手続きがわかる事典 若林美佳 三修社 2025、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 新聞の福祉制度に関する記事、厚生労働省等公的機関のウェブサイトなど。

成績評価

- ①レポート 課題の理解 40%、社会的な問題に対する意識 30%、レポートの完成度 30%
②科目修了試験 論文形式の評価基準として、知識 40%、理解 30%、論理性 30%

その他

生活と経済の問題に関する新聞記事、テレビニュース、関連する公的機関のウェブサイトからの情報などに常日頃、留意してほしい。

商品・サービス等の品質と安全性（テキスト）

担当教員：安藤 昌代

2年次～ 選択2単位

テキスト科目/2026年度

概要

2009年創設の消費者庁は消費者の視点から政策全般に対応する組織であり、製品・サービスの安全性の確保を主要課題の一つとしている。本科目では消費者安全の法制度や消費者・企業・行政の取り組みを理解し、課題や対策を考える力を修得する。その上で消費者として、製品安全の基本姿勢を身につけ、リスクを防止するための「リスクコミュニケーション」に参加できる学習となることを目指したい。消費者保護行政での経験並びに消費政策関係の調査・研究での知見に基づき添削指導に当たる。

（「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目）

授業の方法

【印刷教材等】

印刷教材等及びアクティブ・ラーニング（調査学習）

学位授与方針との関係

大学DP1

到達目標

- ①消費者を製品の事故から守る法制度や行政の取り組みについて理解する。
- ②身近な製品事故についての実態やその発生原因を把握し、消費者・企業・行政の課題や対策を考える力を養う。
- ③消費者の誤使用による製品事故、高齢者、子供等の特性や生活事象から発生する事故を把握し、総合的に理解する。

学習の進め方

テキストを熟読した後、レポート課題に着手する。課題1は個別の事故事例の原因や各主体の対策を調べたうえで、テキストの該当箇所を参照し各主体の安全性対策を総括する。課題2は第1章を中心に学習する。より深い理解のため消費者庁、経済産業省、製品評価基盤機構等のホームページの参照が望ましい場合もある。レポート合格後は各項目の専門用語や基本的知識を十分に理解し、また課題や対策について自分なりの意見をまとめておくことが求められる。科目修了試験に向けてはテキスト全体の理解だけでなく、報道される身近な消費者安全に関する情報にも目を向けておくことよい。テキストは2011年出版のため最新の法改正などに対応していない。学習の手引きを必ず参照してほしい。

内容

- | | |
|------------------------------------|---|
| ①消費者安全行政の歴史 | ⑨消費者安全における事業者の責任 |
| ②消費者安全の法制度：消費者基本法、消費者安全法 | ⑩子どもの事故の特性と実態 |
| ③消費者安全の法制度：消費生活用製品安全法～PSCマーク制度 | ⑪子ども向け製品の安全対策の考え方 |
| ④消費者安全の法制度：消費生活用製品安全法～重大製品事故報告制度など | ⑫高齢者の事故の特性と実態 |
| ⑤事故情報収集制度等の行政組織 | ⑬高齢者の事故を防止する安全対策の考え方 |
| ⑥インターネット取引に対応した最近の法改正の動き | ⑭消費者安全における行政の責任 |
| ⑦消費者の「製品誤使用」の形態 | ⑮消費者安全における消費者の責任と役割 |
| ⑧製品の安全設計の考え方 | 等、具体的な事例でその原因と対策、そして法規や行政のシステムについて学習し、基本的な理解を深める。 |

テキスト・参考書

①テキスト

なぜ、製品の事故は起こるのか—身近な製品の安全を考える— 向殿政男他 研成社 2011、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考

消費者庁ホームページ <https://www.caa.go.jp/>

経済産業省ホームページ「製品安全ガイド」 https://www.meti.go.jp/product_safety/index.html

製品評価技術基盤機構（nite）ホームページ <https://www.nite.go.jp/>

成績評価

①レポート

全体を100として、課題理解40%、テキストでの学習40%、レポートとしての完成度20%を目安として評価する。

②科目修了試験

論文形式の出題とし、知識の理解、考察力、論理的思考力、記述力を総合的に評価する。